

令和3年度第2回少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会 会議録

開催日時	令和4年3月15日(火) 午後6時30分～午後8時15分
開催場所	飯田文化会館1階展示室
出席者	<p>座長:代田昭久教育長 副座長:後藤正幸</p> <p>研究会委員:木下潤児、斉藤辰幸、島崎誠、鈴木紳也、林克義、大場孝、安田完爾、宮下博、伏木久始(リモート)、坂野慎二(リモート)、北澤正光 (欠席者)酒井正也、熊谷兼富、渡邊義昭 (敬称略)</p> <p>事務局:松下徹教育委員会参与、桑原隆学校教育課長、湯本正芳学校教育専門幹、塩澤裕美子教育指導専門主査、麦島隆教育指導専門主査、小木曾雄亮教育指導専門主査、山浦貞一教育支援指導主事、櫻井英人課長補佐兼総務係長、竹村公彦課長補佐兼教育企画担当主幹、上沼昭彦課長補佐兼学務係長、仲田好寿保健給食係長、上柳智広児童クラブ担当専門主査、熊谷一彦学校施設係長、小澤亮公学校施設係</p>
配布資料	<p>1. 次第</p> <p>2. 今後の検討の進め方について</p> <p>3. 「児童生徒「ひとりひとり」の学びを支える地域に根ざした飯田らしい教育環境づくりに向けて」(保護者向け配布資料)</p> <p>4. 令和3年度第1回研究会会議録</p>
記録者	事務局竹村
会議録	<p>1. 開会(事務局 以下3まで進行)</p> <p>2. 座長あいさつ</p> <p>コロナで順延となってしまったが、大事な会議なので忌憚のないご意見を頂きたい。あす明後日と小中学校の卒業式が行われる。暖かい春の日差しの中で良い卒業式を迎えられると思う。ただコロナの影響で学級閉鎖をしている学校がある。なんとか感染が広がらず無事卒業式を迎えられたらと思う。そんな願いを込めながら本日はよろしくお祈いします。</p> <p>3. 研究会会議録の内容確認・公開について</p> <p>→内容の修正なし。</p> <p>4. 報告・説明事項(座長 以下5まで進行)</p> <p>(1)保護者向け資料の配布について(事務局説明)</p> <p>→3月7日の週に学校を通じて保護者へ配布した。前回研究会で出た意見を参考に、動画も作成した。</p> <p>(2)令和2年度からの経過について(事務局説明)</p> <p>→次第2ページの資料により説明。</p> <p>5. 協議事項</p> <p>(1)今後の検討の進め方について</p> <p>(座長)先ほど経過の中でこれまで取り組んできたことを共有させていただいた。来年度の進め方について、皆様のご意見を頂きたいと思う。配布資料の p12 ロードマップをご覧ください。R2,3,4 年度はなるべく多くの皆さんにこの課題を考えてもらいたいというフェーズであると思っている。そして R5 年度からは審議会です具体的に進んでいくと思う。まずは R2,3,4 年度が1つのセットで進んでいるということで、協議事項に入りたいと思う。</p> <p>資料「今後の検討の進め方について」のうち p11「意見交換をふまえた今後の方向性」を説明(事務局)</p>

〈令和4年度の方向性〉

○特色・魅力ある学校づくりを重点に必要に応じて学校の配置・枠組みについて、学校運営協議会が中心となり地域的な話し合いを行っていく。

○話し合いにおいては、当事者である保護者や児童生徒の意見を大切に考える。

○小中一貫教育や新しい教室づくり、家庭や地域とともに行う学びの環境づくり等についての理解を深める。

(座長)来年度の進め方についてご意見を頂ければと思います。最初に委員1いかがでしょうか。

(委員1)客観的データとして3つ挙げられているが、これは国がやっている調査だと思う。飯田市の教育の特色としてやっていることは何か。それをどういう形でデータ化したらよいかということを検討すると、飯田らしい教育改革ということになっていくのではないか。何か浮かぶことはあるか。

(事務局)定量的なものではないが小中連携やコミュニティスクールで取り組んできたことはこれにあたると思う。また部活動のジブンチャレンジ期間のことをアンケート調査しているのでデータとして示すことはできる。さらにコロナの休校時のオンライン授業について、児童生徒・教職員・保護者へアンケートを取った結果があるので、これも示せると思う。

(委員2)小中連携について数値化するのは難しいかもしれないが、小中連携や自分たちの校区の良さについて子どもたちや保護者にアンケートをとり、データ化することは可能ではないか。

(委員3)各学校では学校評価アンケートを生徒と保護者に対して行っているのだから、それは活用できると思う。一人1台タブレットが配布されたので簡単にアンケートを取ることができるようになった。必要なものは改めてアンケートすれば良いと思う。

(委員1)学校ごとにこういう実態があるということを、他の人が見て分かるようにすると良い。地域の人や保護者が学校を考えるとネタとすることができる。ぜひ学校でこうしたデータを準備してもらえると良いと思う。

(座長)客観的なデータとしては、学校評価アンケートやオリジナルのアンケートなどがある。定性的なものとしては小中連携やコミュニティスクールの取組などが資料として役に立つのではないかと話していただいた。

(委員4)今までの話を聞いて2つ指摘させていただきたい。1つ目は、飯田のやり方は極めて民主的に地域ごとの声を吸収して、それを参考に次へ進むというステップを踏もうとしている。教育委員会が引っ張らないという姿勢がとても強く、住民にやさしい自治体だという感想だ。しかしそのことが裏目に出る部分があるのではないか。地域で意見を言う人は、その人個人の教育経験から話すわけで、20年後の教育の視点から意見を出してもらうのは難しいし無謀だ。だからある一定の将来像やこういう方向で考えるべきだというビジョンを教育委員会が示し、それに対し地域の意見を聞くという手法をとったらどうか。各自治会の皆さんが、いま大きな教育の転換点に立たされているという自覚をどれだけ持っているのか。新たな教育の環境を作らねばならない事態のなかで、住民の声を聞くだけで舵を切っていけるのか、少し心配になっている。

2点目は、客観的なデータを集めて考えていくことは研究者もやることだし、大事なやり方だと思うが、教育実践に関して言うと、データを集めて何が言えるのかを探ることと、データからどういう理念に基づいて進んでいくかは別次元の話だ。例えば飯田市の不登校は全国と比べてどうか、過去10年間の推移はどうかというデータが出てきたとする。そこから飯田は今後どういう教育をするのかということは別の話だ。別の指標(ex 臨時採用教員の割合、SC・SSWの配置状況、PTA活動が主体的にできているか、育成会活動が充実しているかなど)をクロスさせることにより、客観的データの読み取りが可能になる。体力測定で筋力が下がっているから筋力体操を体育でやろうというような、単独のデータから判断することは危険である。具体的には日本は学力低下が叫ばれたときに、授業日数を増やし、教科書を厚くした。一方オランダは今までの教育方法に問題があったとして、研究を重ねて教育環境を見直した。それにより授業日数や教員の労働時間を増

やさずに学力を上げてきた。昔の教訓を生かさないまま、同じことを繰り返すような気がして指摘させていただいた。

(委員5)データには良いデータと悪いデータがある。それぞれの原因も載っていると意見が出やすいのではないかな。

(委員6)難しすぎて、正直ついていけない。

(座長)大事なご意見を頂いたと思う。学校運営協議会の場でも難しくて分からないという指摘をいただいたような気がする。

(委員7)自分の子が通っている学校のことは分かっているけど、他の学校のことは知らない。学力や宿題の多さや部活のことなど保護者でもほかの学校と比較して見ることはできるのかな。

(事務局)比較して見ることは可能です。

(委員3)委員4の「ビジョンを示したうえで意見をもらう」という意見に賛成したい。委員6が言ったように私にとっても難しい。正直何を議論していいか分からない。学区のことをやるのか、新しい学校の中身をやるのか、議論の論点が多すぎて何を言っていいのか分からない。ビジョンを示してもらいそれについて意見を言った方が議論は進むと思う。

もう一つ委員4からデータについての指摘もあったが、我々がデータを見て判断することは非常に困難。専門家の仕事であろうと思う。極端な例で言うと、以前農薬の使用量と子どもの不安の強さが比例しているかのような報道番組があった。教育については様々な見方がある。まずは教育委員会からビジョンを出すことをお願いしたい。

(委員8)冒頭教育長からR2～4が区切りという話があった。飯田市の現状を知らせる資料が保護者の手元へようやく届いたところ。地域や保護者の皆さんが今後どんな学校にしていくかを考えるスタートラインに立ったところだと思う。だからビジョンを示すというのはR5年度の段階ではないかな。R4年度は学校の現状を理解共有し、先を見据えてどんな学校になったらいいかを保護者や、中学生に考えてもらう年ではないかなと思う。ここまで時間をかけているので慌てることなく、共通理解を深めてそこからどういう意見が出てくるかという時間が必要ではないかな。市民には全く分からずに一部の人のみで進めているということになると、かえって手間がかかることになるのではないかな。来年度は学校の特色・魅力を考えていく学区と、一歩踏み込んで配置・枠組みを検討する学区とに分かれていくかもしれない。いずれにしても来年度はこれからの私たちの学校をどうしていくか考え始める段階だと思う。

(委員9)実際に丘の上では生徒の数が少なくなりクラブ活動が危機的な状態だ。子どもたちのためにこういう状態を早急に解決してあげたい。理想を言っても進まない。現実をもっと見てほしい。教育委員会がどうしたいという方向性を出してもらわないと、いつまでたっても話ができない。

(座長)委員4の「ビジョン」と委員9の統合などの「方向性」というのは、少しイメージが違うと思うがいかがかな。

(委員4)私たちが経験してきた昭和の教育(大勢の子どもが競い合い、叱咤激励されながら育つことに子どもの成長があるという教育)を続けていくとどうなるかをシミュレーションする。学校は統合しないといけないし、地域に学校はなくなっていく。ただ校舎の老朽化が進んでいるし予算にも限りがあるのでやむを得ず統合をすすめる。今までのビジョンと変わらないということになる。それに対し個別最適な学びや多様性を尊重する教育という発想に立った時、学級主体の授業や教室を固定化した学びから解放されて、すぐに学校統廃合という発想をするのではなく、別のあり方があるかもしれない。ここで言うビジョンとは統廃合という意味ではなく、そもそも子どもたちにとってどういう学びを提供するか。新しい時代に求められている学びのうちA案を取ったらどうなるか、B案を取ったらどうなるかというような、一般の保護者にもわかりやすい選択肢を与えることが具体的にイメージしやすいビジョンになるかもしれない。

(座長)事務局としてはそれを R4 にやりたくて、この資料を作ったというイメージ。先進事例を含めてこういうやり方があるということを来年度はみんなで勉強していきたい。ビジョンが具体的な令和の学校のあり方を示して話し合うものだとすると、こういうことを示したい。

(委員 10)国としてこの程度になったら統廃合を検討すべきという規定があるが、この研究会はこういう規定を優先しないという発想からスタートしている。ビジョンを持つときに何が必要か考えると、現実をみんなで共有すること。だから今年度様々な意見を出してもらったがまだまだ不十分だと思っている。来年度は客観的なデータを出してくれるとのことだ。こういうデータを共有することでもう一つステップを上げられるのではないか。委員3が言ったビジョンというのは、学校の配置や、こういう教育を目指す市教委が言ったものということではないと思う。こう進めますが如何ですかという発想はこの研究会にはないと理解している。来年度はデータをもとにして、今年よりいろんな意見が出ると思う。具体的なものが出て行くのは令和5年度以降という歩みをしているのだと思う。

(委員4)住民の会議へ協議を投げた時、投げられた方が何について議論したらいいのかちゃんと受け取られていない気がした。例えば多様性のような今後の教育に対する理念をそろそろ出す時ではないか。地域が議論をしやすくなる教育委員会からの姿勢が必要ではないか。それはこの研究会で出た意見を集約したのもでもいいし、教育長を中心に打ち出していくものでも良い。多くの住民や中学生は未来に向けての学校教育について、そんなに簡単に意見は言えないと思う。ビジョンの原案のようなものがあり、それを住民の会議へ流しながら方針を決めていくような進め方が良いのではないか。

学校単位の協議会で話し合うデメリットは、学校区を超えて俯瞰的に見ることができないこと。その点では資料にあった「別の組織を作る」のは賛成だ。ここに選ばれた委員は、この委員会が終わっても教育アドバイザーとして活躍してもらってもいいくらいだと思う。学区を超えて飯田の課題や目指す方向性を教育委員会と一体になって考えていく組織であると素敵だと思う。

(委員1)資料の中に「令和の日本型学校教育」とあるが、これは中教審の答申だ。このようにこれからの教育はこう変わっていくという情報を提供していかないと、学校をこうしていきたいというイメージがしづらいのではないか。また、小中一貫教育の表記があるが、これはあくまでも選択肢の一つであり、他にどんな選択肢があるか提示してあげる。これが先ほど出た A 案 B 案ということになるのだらうと思う。学校の配置・枠組みについては教育委員会としてこう考えるということ、地域へ振ってみる時期に来ているのではないか。施設の老朽化や児童生徒の減少の中で、教育委員会としてはこうした方が子どものためになるということ、1つとは限らず提案していく。この規模の学校ならこんなやり方がある、この地域ならこんなやり方があるということを提示し、どういう学区にしていくか考えてもらう。こういうキャッチボールを何回かしていく。地域からすれば、教育委員会から投げられなければ返しようがない。今日出た発言はこのことだと思う。国では 35 人学級や小学校への教科担任制の導入、幼小連携などに取り掛かろうとしている。また「令和の日本型学校教育」には「個別最適な学び」や「協働的な学び」という言葉がある。これらのことをやろうとした時の教育環境はどのようなものがあるか。この議論をするための元ネタをそろそろ教育委員会を出した方が良いのではないか。

(委員 11)旭ヶ丘中学校校区でも今年度この課題を話し合ったが、まだ少子化に直面していないので理解しづらいところがあった。教育委員会としてのビジョンは必要だと思う。私が小学校2年の時に大久保小学校が廃校になり追手町小学校と一緒になった。子どもたちはそれほど抵抗なかった。子どもたちはある程度対処できるので、老朽化の課題などを何とかしたいと思うのならば、ビジョンのようなものを出さないと先へ進まないと思う。また、PTA の活動にも面はゆいところがある。共働きの家庭が多いので PTA 活動さえできない人がいる。だから認識を共有できない部分があると思う。まちづくりでも組合加入率が 56%程度。組合に入っている人にしか声が届かない。

(委員 12)保護者に配布された資料も、少子化や校舎の老朽化が進んでいることのウエイトは大きいですが、飯田らしい教育環境に向けて飯田市がどう考えているかが分からない。だとすると今日の話のようにビジョンを示し議論を噛み合わせていくべき。すぐに答えの出ない壮大なテーマなので教委としても方向性を求めているのだと思うが、学校運営協議会の委員が何かしっくりきていない。地域は、ふるさと飯田を誇りに思う子どもになってほしいと思っている。そこを原点に飯田らしい学校づくりはどのような段取りでやっていくかを分かりやすく示して欲しい。

(委員3)テーマが大きすぎる。これは専門家が考えるべきテーマ。我々はもっと具体的な話がしたい。だからビジョンがほしい。だが市教委の立場からすると9つの学校区がそれぞれに様々な課題を抱えているので、市教委だけでまとめきれないという現実もあるのではないかと。それだけの人を割かなくてはいけないし、大変なことだろうと想像する。9つのビジョンを示せるのか。よっぽどの研究を重ねる必要がある。研究会も学校運営協議会もメンバーが変わっていく中でこの問題が解決するのか。やはり長期間にわたりメンバーが変わらずにこのことを研究する組織が必要だろうと思う。

(座長)なかなか難しいテーマで結論は出ていないが、今日のところの大筋の合意は得ておきたいと思う。「ビジョン」という言葉はそれぞれの捉え方があるので、この言葉は使わないようにして、来年度に関しては「学校運営協議会の中でより具体的な話ができるテーマを出し、話し合いをしやすいようにする。」ということによるか。→異議なし。

来年度は1学期にこれをテーマの学校運営協議会を開催するようお願いしている。どのようにやるかは個別に事前打ち合わせということになるかもしれない。1学期の会議は今年度よりも議論が噛み合うものにしていきたい。難しい課題だが引き続きよろしくお願ひしたい。

(2)研究会委員の任期について

(事務局説明)今年度1回目の研究会でも、継続性の観点から来年度も引き続き委員をお願いしたいという話をした。年度末の時期なので改めてお願いをしたい。充て職の委員もおられるので、選出団体で新たな委員を出される場合でも、今の委員に残ってもらうということもあるのかなと思う。個々にご検討頂いて、また声をかけさせていただく。

(座長)冒頭も申し上げたが、令和4年度がひとくくりと思っている。令和5年度からは専門家が入った会議を立ち上げたいと思うが、4年度まではこの研究会のスタイルで行きたいと思っているので、充て職の方でも引き続きできる方は残っていただきたい。個別にお願いしたいと思うのでご承知おきください。

(委員4)私の zoom 画面のバックは飯田東中の空き教室に開設した信州大学教職大学院のサテライトキャンパスの写真だ。ここは大学院生が演習をするスペースになる。長野県教育委員会では今後県立の学校はこんな教室にしていこうと思っている。何十年か後の全国の学校の中にはこういうスペースがあるのが当たり前になるだろうと思う。国が進める最適な学びの環境はこのようなスペースになる。飯田市教育委員会や東中の先生がアイデアを出し合い作ってくださった。委員の皆さんもこういう場所で学ぶ子どもをイメージしながら令和4年度の検討をすると頭の体操になるのではないかと。飯田市教育委員会の皆さんありがとうございました。

(委員1)今は夢を語る時期なので、ぜひみなさんと夢を語ってもらいたいと思う。それがうまく取り入れられれば良い方向へ向かっていくと思う。ありがとうございました。

6. 今後のスケジュール(事務局説明)

→次第により説明

7. 閉会

(副座長)お疲れさまでした。これまでにない熱い議論ができ良い会議だったと思う。今年度はスタートがコロナ禍の第4波、その後第5波、6波。そして夏のオリンピック・パラリンピック、冬のオリンピック・パラリンピック。そ

してロシアによるウクライナ侵攻。この1年で起きている大きなうねりを感じている。科学技術は進展するが、何も変わらないのは人間なのかもしれないと感じさせられている。能率や効率ということを最も恐れなければいけないと感じている。それは考えるということを省くことになるからです。今本気になって多くの人がいろんなことを考えているのは、能率や効率では賄えないことに直面しているからだと思う。

来年は勉強会を開くかもしれない、別の組織で協議するようになるかもしれない。ここにあるような進め方に期待しつつ締めくくらせていただきたい。ありがとうございました。